

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100259		
法人名	有限会社楽らく		
事業所名	グループホーム楽らく		
所在地	三重県南牟婁郡紀宝町成川1076-5		
自己評価作成日	平成 30 年 1 月 22 日	評価結果市町提出日	平成30年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2473100259-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2473100259-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30 年 2 月 13 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心・・・楽しく、気楽に」を基本理念とし、入居者様と共に職員も楽しく過ごせるような事業所を目指しています。  
また、看取り介護の実績もあり、希望される入居者様には最期の時まで楽らくで過ごしていただいています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三重県最南端のグループホーム楽らくは、山と海の豊かな自然に囲まれた環境の中に位置している。2ユニット2階建て、2階のユニットは、隣接する1階の「サービス楽らく」と渡り廊下で繋がっている。事業所開設当初に作られた「心・・・楽しく・気・・・楽に」を基本理念として現在も継続して地域に密着した取組みに努めている。地域との防災意識も向上し、運営推進会議でも意見交換が活発にされる様になった。地元や近隣の地域からの利用者が多く、デイサービス利用の方々とも顔見知りや知人が大勢みえるので、馴染みの関係がとても安心できる暮らしに結び付いている。居間から見える庭には、サクランボとキウイフルーツの木が植えられ、又菜園には野菜作りに詳しい利用者の方々の手入れにより、1年を通して実り・収穫、食卓の一品料理にと喜ばれている。職員同士のチームワークも良く、資格試験援助も事業所より積極的に行われており、管理者と全職員は質の高いケアを目指して日々取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心…楽しく、気…楽に」を基本理念とし、入居者の皆さんと職員が共に楽しみ、地域に密着したグループホーム作りに取り組んでいる。	事業所の開設当時からの基本理念を、現在も大切に引き継いでいる。管理者は、毎月1回職員会議の場で職員に意味を伝えて、目標や思いを話し合う事を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃奉仕活動や氏神様のお祭りに参加したり、近所の小学校の行事や市町主催の行事に職員も参加している。地域住民が立ち寄られることもある。	町内会長との協力関係も良好で、地区防災の手伝い・草取りに参加したり、小学校の学習発表会・運動会へ利用者と見学に行っている。自治会防災倉庫に収納されている災害時備蓄品や発動機等の使用の促しを頂いており、地域との信頼関係も事業所として心強く感じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症疾患医療センターである熊野病院で、医師や職員、認知症家族会に対しグループホームの取り組みなどを講演している。また、地域の認知症ボランティア団体の見学を受け入れ、認知症介護の啓発活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の内外活動の支援をお願いし、会議の意見に基づき、地区の緊急災害時等の一時的な場所提供の協力を約束している。また町内会の主催する防災への取り組みも参加している。	会議は年に5回の開催である。消防分署長より訓練指導と会議参加があり、非常時救助や救急時の助言等が取り組みに役立っている。また、認知症カフェへの参加や活動も増えてきている。今後の参加メンバー拡充や会議開催回数等の課題を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各市町の地域包括センター主催の研修会への参加や介護保険の更新手続きなどで役場に出向き制度面等での指導して頂き、サービスの改善や向上に役立っている。	地域包括センターの依頼を受け、管理者は講演会に出向き講師を務めている。又グループホーム生活や地域での話を「バネリスト」として講演している。市や包括からの依頼で当事業所の見学会実施もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常的に意見交換して、身体拘束防止を全職員で取り組んでいる。個々の介助場面でも職員同士が声を掛け合って確認している。	事業所での身体拘束の実態は無いが、「言葉の拘束」については職員同士が声掛け合い、言葉の工夫や取り組みを行なっている。	「身体拘束ゼロへの手引」を基にした取り組みを大切にして、全職員の「年間研修計画」の中に、身体拘束防止についても学べる機会を作られる事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者ひとりひとりの状態について、職員の意見交換の場を持ち、虐待を見過ごすことのないように努めている。グループウェアの活用で、管理者よりその都度情報発信をして意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に、成年後見制度を利用されている方がおり、成年後見人への連絡や対応等を通じ制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、利用契約書や重要事項説明書内容を家族や代理人に説明し理解と共に契約している。改定の際は文章、説明にて了解(サイン)を頂き、同意と了解を共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族の面会時に面談の時間を作り、意見や苦情などを聞いている。玄関にも意見箱を設置し、抵抗なく意見をしていただけるようにもしている。	年2回家族会の中で、家族より要望や意見が聴ける様にしており、家族面会来所時にも必ず玄関まで出迎えて対話をしている。玄関には「御意見箱」があり、投稿は無いが設置は継続している。	年2回の家族会開催の良い機会を最大に活かして、直ぐに答え易い「アンケート」を取るなどの、意見の吸い上げをその場で活かせる様期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会あるごとに個別面談を行い、意見を出しやすいように面談場所にも配慮し、個人の意見が反映できるように努めている。また、毎月の職員会議で職員と管理者が必ず意見交換できる機会がある。	年3回の個別面談を統括(代表者)と職員が実施する中で、意見や要望を聴いている。毎月職員会議で、管理者は職員との意見交換が出来る機会を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事に対する取り組みに対し、内外研修会の時間外手当の支給や資格試験の援助を積極的に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、サービス事業管理者研修、リーダー研修などの研修会や講習会に積極的に参加を勧め、受講手当てなども支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)三重県地域密着型サービス協議会の会員になり、各研修会に参加し意見交換や事例提供をして交流を図っている。また、紀南介護事業者連絡会にも参加をして、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーや家族からの情報を元に本人との面談を行い、気持ちを汲み取れるように傾聴し、ホームの見学を勧めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し合い、不安材料や要望を把握し、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言葉掛けや、関わりに充分配慮し、他の入居者の皆さんとの仲を取り持つ対応をし、入居に向けての面談においても、他の施設サービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話にも気を付けながら尊敬と感謝の気持ちで、本人の望むことを出来るだけ把握するよう努める。そして、その実現を無理強いくことなく支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告や利用料請求時の手紙による近況報告を行う。スナップ写真や「便り」と題した新聞なども同封している。状況に応じて電話連絡や、話し合いの場を設けて問題解決に結び付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年付き合いのあるお店や業者との利用が続いたりするように、入居後も支援する。家族や親戚、友人などの来訪に対し、ふれあいの場所を提供している。また電話をかけたいたいという要望にも答えている。	隣接デイサービスに、近所の馴染みや顔見知りの知人が多く、交流の場が馴染みとなり楽しんでいる。介護タクシー利用で馴染みの美容院に行く方や、訪問美容を利用する方も美容師と馴染みになっている。電話を希望される場合も出来る限り叶えられる様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を共に摂る時や、畳部屋で洗濯物のたたみ作業を一緒にしてもらう際などに、職員が間を取り持ち、入居者同士の関係がうまくいくように、さりげなく配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設入居で退去された方にも、お見舞いや面会で様子を見に出かけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で一人ひとり出来る事と出来ない事をよく見極め、各々の思いや希望などを職員で意見交換し本人の立場で考えるようにしている。	日常の洗濯物量みの様子から、得意か不得意か？出来る事は何か？等の気付きを見極め把握をしている。思いや意向の把握が困難な場合は家族に伺っている。旅行企画については、今後も思いを把握しながら実現を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談の中での本人や家族の聞き取り、日頃の会話の中での情報を基にサービスに反映している。また、入居後も家族の面会の際に、かつての好みや生活など世間話の中で、情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの好みや行動のパターンを把握し、中庭の散歩や水やりなど、できることを日頃から模索している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に接する中で、意識的、無意識的に本人が求めていることなどを把握し、カンファレンスにより本人や家族の意見を取り入れて介護計画に役立てている。担当職員がモニタリングをしている。	毎月1回、職員会議で計画作成への意見交換や見直し等、カンファレンスに取り組み、担当制導入により利用者の視点に立ち、気付きや変化を把握出来たモニタリングがされている。計画書は管理者やケアマネジャーより、家族への説明・要望の聴き取りや同意の確認を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳を作成し記録している。台帳の閲覧場所を決め、必要な情報を介護職員が共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突然の家族の面会、外出や宿泊希望についても柔軟に対応している。受診においても、可能な限り柔軟に対応している。また、誕生会でも多人数の家族の受け入れも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの理髪店に散髪に行ったり、ドライブの際に地域のお店に買い物に入ったりする。顔見知りの方がおられるお店は選んで訪れるようにする。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医のある方は引き続き受診支援を行なっている。又、医療機関ともなじみの関係を築き、医療、歯科の往診も利用していただいている。	入居時のかかりつけ医継続希望にも家族と協力して通院介助を支援している。利用者の受診経過や情報等は、家族や主治医との連携を密に共有している。薬が届くと安全に仕訳管理がされている。夜間や緊急時は24時間連絡や対応、オンコールも整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携をとり日常の健康チェック、往診時の立会いや急変時の連絡相談等の健康管理を行っている。看護師は日々インターネットを利用して、利用者の健康状態を把握している。原則、オンコールで常に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関や主治医と入居者の健康などについて常に情報交換を行っている。入院中は、家族とともに退院後の生活について地域連携室との情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や主治医との連携をとりながら、入居者が終末期を迎える際にどのような対応が可能かなど、方針と方法を共有している。また、看取りにむけて家族の意向を記した同意書も交わしている。	入居時に「終末期への対応」や「看取りに向けて」家族の希望を最優先に、意向確認と同意書を交している。昨年度の看取りは3名であった。職員研修を行う中で、メンタル面・知識・医師との連携等、方針の統一を図り、職員の理解と意欲と、安心して看取りの支援が出来る様に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医師との連携があり、夜間でも連絡できる体制がある。また、地域病院の開催する救急勉強会にも参加していて、応急救護などは社内研修で実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災などいろいろな状況を想定した消火避難訓練を年2回、地域の皆さんにも参加を呼びかけ実施している。避難経路や避難場所の確認も同時に行う。	防災訓練は年2回、消防や地域住民参加を呼び掛けて実現が出来た。2階のユニットが、デイサービス1階と繋がる廊下より比較的安全に避難誘導の実践が出来ている。自治会防災倉庫に有る「発電機」等の使用の促しを受けている。事業所内にも必要な備蓄物品を整える等検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー尊重の観点から、各居室への出入りは一言掛けて行い、人前であからさまに介護、介助をしないように心がけ、個人情報の記載されたケア記録等は事務所の鍵付きロッカーに保管している。	夜間巡視を拒む利用者の安否確認に苦慮している。個人の意思・人格を尊重した上で、昼夜共に全職員の統一した工夫や対応法を常に話し合い心掛けて実践している。日々回数が多いトイレ誘導や介助には、人前での声掛けの言葉や気遣いを、常に意識を持つ様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表現や反応から気持ちを汲み取り、無理強いしない介護に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに沿った、その人らしさを優先させた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれを積極的に支持し、なじみの理容店のある方には、外出してもらったりしている。希望を募り、美容師さんにホームに来てカットをしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と同じ食事を取り、又、食事形態において個別対応もしている。食事に時間が掛かって出来ただけご自身で食べて頂いている。食後の片付けや食器の洗い物も利用者と共にしている。	週3回隣接デイサービスより調理済み食品が届き、可能な限り利用者が、副菜取分けや配膳を手伝っている。その日以外は、利用者と職員が近くのスーパーに食材を買いに出かけ、一緒に調理している。現在の食事形態維持出来る様に、食事前に全員で「嚥下体操」を積極的に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎回、食事量や水分摂取量は日報に記入し職員で共有し、健康状態を把握している。水分摂取を拒む方には、ゼリーなどを自家製し工夫して摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の皆さんの状態に合わせて、毎食後の歯磨きの習慣を支援している。協力歯科医院の協力をも得て口腔ケアについて医師の指示を頂いている。また、歯科医師による往診も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を介護職員が確認し、排尿排便間隔や量などの情報を把握し、失禁を減らしトイレでの排泄を支援している。朝夕の申し送りでも排泄状態について細かく確認している。	個別に排泄表を確認しながら、トイレでの排泄支援を目指しており、2ユニットで7名が布パンツ使用で自立度が高い。夜間オムツの方で紙パンツに夜用パット使用で、ポータブルトイレ使用を合わせて、全職員が懸命に現在トレーニング中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない自然な排泄を目指してバランスの取れた食事を提供している。下剤の使用は、医師や看護師の指導のもとで行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回、すべての入居者に対して、入浴前に健康状態を観察しシャワー浴などに変更したり、体調を把握し、入浴を無理強いしていない。拒否がある入居者様には時間を調整したり声かけを工夫しているが、夜間の入浴は実施できていない。入浴剤も利用している。	週2回入浴を基本とし、お湯は1人ずつ入れ替えをしている。寒さの為もあり入浴を嫌がる方も有るが、無理強いせず誘い方の工夫や入浴剤使用等で動めている。バルーン使用の方は本人希望尊重し、シャワー浴対応であるが、湯舟に入れるキッカケ作りや工夫を日々検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠がある場合、その原因を職員間で探り、安易に薬剤に頼らないように心がける。不眠の原因を共有することで、安心して寝ていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には名前、日付けなどのタグを付けて誤薬を避ける工夫を行う。病院や薬局で頂いた、薬の説明書を個人ファイルに整理し職員が何時でも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人からの聞き取りで家事や農作業など入居者の皆さんの得意とする分野での楽しみを支援している。食器洗いや洗濯物たたみなども行って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど、外出の機会を増やし希望に応じた場所に行けるように支援している。普段のちょっとした買い物などにも、同行して頂くようにも心がけている。	事業所は坂を上った場所に位置しており、外出が消極的になりがちであったが、車で外出の機会を増やし利用者も外の様子や刺激を受け気分転換している。日常の買物も利用者と一緒にドライブ気分を味わっている。歩行達者な利用者は、近隣の小学校やお寺への散歩コースを楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭出納帳を作りお金を預かり、買い物時の外出には本人の希望を聞き買い物を支援している。ご自分の意思と選択でお金を使うことの喜びを感じて頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる限りご本人が望まれるタイミングで、電話の取次ぎの支援を行っている。本人宛の手紙なども、届くと喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、季節感を得るようにしている。フローアータタミ敷きの部分も、和式の柔らかい採光となるように設計し、穏やかな雰囲気を出すようにしている。	玄関は4枚引戸で間口も広く、落ち着いた和風建築である。職員が出勤すると玄関ベンチに利用者が腰掛けて、朝の挨拶で出迎えがあり、和やかな雰囲気でも誰もが好む場所である。食堂兼居間は陽当たり良好とても明るく居心地良い共有空間で、南側テラスもよく陽が入り、季節によっては外でのお茶を楽しめる場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	八畳のタタミ敷きの部分があり、入居者同士が思い思いに楽しむ空間がある。なぜか、玄関に置いてあるベンチが人気の場所でもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して、なるべく使い慣れた家具など持ち込み居心地が良い部屋作りに配慮している。	各居室ドアには磨り硝子により、全室異なったデザインが施されている。3部屋だけは洗面台設置がされている。居室内には家庭用冷蔵庫やテレビ、椅子等が持ち込まれ、自宅の様に快適に心地良く過ごせる様な家族や利用者の思いが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が可能だが、歩行不安定な方にはセンサーコールを取り付け、部屋を出るときに確認できるようにしている。		